

## 歌舞伎の歴史

歌舞伎は日本の伝統文化の一つであり今でも多くの人々から支持を得ている。奇妙な衣類を着るという意味の「傾く」が語源であり、今でも伝統的な衣装を身にまとして演じられている。しかし発端当初の歌舞伎は現代の形とは少しかけ離れたものであった。

歌舞伎の歴史は 1603 年まで遡る。出雲阿国という女性がお寺で神聖な音楽とともに、男性に成り済まして踊ったことが始まりといわれて、その踊りは「かぶき踊り」と言われた。彼女の踊りはたくさんの人々を魅了したが、有名になるにつれ売春婦が彼女の名前を使い始めた。人々は歌舞伎が卑猥なもの結びついていると考えるようになり、そこで政府は 1629 年に歌舞伎を禁止した。その後 15 歳以下の男子が主に演じるようになったが、これも売春との繋がりが切り離せず、1652 年に再度政府により禁止されてしまう。

しかし江戸時代末に転機がやってくる。当時、人々の娯楽はとても限られていたため、劇や芝居を見ることに多大な時間をかけていた。この時代背景に乗り、歌舞伎が復活し始める。政府は成人男性だけで行われることで歌舞伎の復活を許可した。これらの変遷を経て現代の、女性の役も含めてすべての役柄が男性によって行われる形式が成立した。

歌舞伎は時が流れるにつれて人々の娯楽の中心からは遠ざかっていった。しかし現代でも歌舞伎は日本への旅行者にとっては観光スポットであり、支持も依然衰えることを知らない。そして 2009 年歌舞伎は遂に UNESCO の世界無形遺産に登録され、名実ともに日本を代表する伝統文化になっている。